

二年生でがんばりたいこと

村木 璃子(二年一組)

私が二年生になってがんばりたいことは、さんすうのかけざんです。どうしてかと言うとせんぶすらすら言えるようになりたいからです。げんち校ですこしならいきました。もう一は、たしぎんのひっさんをがんばりたいです。むずかしいもんだいを早くときたいです。しゅくだいをしつかりやります。

「なまえつけてよ」

古澤 天翔(五年二組)

この物語は、主人公の春花と同じクラスの勇太がはじめは、話さなかつたけど、どんどんなかよくなつて、勇太の本当の気持ちがかかる物語です。ぼくは、ここにえがかれてゐる二人の關係について、春花は、勇太となかよくなりたかつたが、勇太はなかよくなりたいたのかわからな。だけど、ぼくは、二人がなかよくなれたと思います。なぜそう思ったかという、ぼくは、はじめ、アメリカにきたとき、友だちになりたいた人がいました。その人は、ぼくの友達になりたいかは、わかりませんでした。けれど、ぼくは、その人と友達になれました。友だちになるきっかけは、遊んでいたら、自然になつただけです。春花と勇太は馬がきつかけで友だちになつたと思います。ぼくだつたら、そんなきつかけで友だちなんか作れないと思います。

「カレライス」を読んで

山内 萌杏(六年二組)

私はカレライスを読んで、お父さんがかわいそうだと思いました。あと、ひろしのせいしん年れいが少しおきないと思ひました。

理由は、ひろしは「確かに、一日三十分の約束を破って、夕食が終わった後もゲームをしていたのはよくなかつた。」と言つてゐるのに、なぜか物語の一番最初で、「ぼくは悪くない。」と言つてゐるからです。私は、ひろしは親に何度も言われていた上でゲームをつづけて、それをお父さんが止めただけで、お父さんは悪くないと思ひます。それをひろしは、自分は悪くないなどときめつけてお父さんがあやまるまなすぎると思ひました。お母さんがお父さんのみ方につくのもあたり前だと思ひました。「お父さんと口をききたくないのは、そんな子どもっぽいことじゃなくて・・・」と書いてあるけれど、ひろしはじゅうぶ子どもっぽいと思ひました。あと、「分かつてゐることを言われるのが一番いやなんだってことを、お父さんは分かつてゐない」というところは、一番分かつてゐないのは、ひろしだと思ひました。ひろしが学校にゐるとき、「言える言える、だいじようぶ、だいじようぶ。」とお父さんにあやまることをかんがえてゐるところが、私が学校とか、おおぜいの前でなにかをする時にゐると思ひました。お父さんがひろしに、「中辛だぞ。口の中ひいひいしちゃうぞ」と言つたとき、小六にむけて言つてゐると思ひませんでした。私だつたらきれてゐると思ひます。二人は変わったせい格だと思ひました。仲なおりしてよかつたと思ひました。

わたしのかぞく
イレンジオマサン(二年二組)
ママ、パパ、あい子、ちか、りょうとぼく。あい子は、十一才です。ちかは、四才です。りょうは、二才です。そして、ぼくは八才です。

わたしのかぞく
かげ山 れお(二年二組)
ぼくのかぞくは、おとうさんとおかさんとぼくの三人かぞくです。おとうさんはアメリカにすんでいて、ぼくとおかあさんが四月にアメリカにきました。ぼくのおとうさんは、サッカーがとくいです。休みの日は、こうえんにあそびにいつて三人でサッカーをします。

わたしのかぞく
かたちかぞく かんた(二年二組)
ぼくは、ごにんかぞくです。ぼくのおとうさんはとてもやさしいです。お母さんはりょうりがじようずです。ぼくのおにいさんは、いたずらっこです。ぼくのおとうとは、かわいかけどうるさいです。いつもかんしやしてゐます。

わたしのかぞく
からさわ めい(二年二組)
わたしのかぞくは、五人と一びきです。ママとパパとめいとまっくすとまやとリックです。まやはさんさいです。五さいです。まやはさんさいです。リックは十六さいで、わたしのおにいさんです。わたしのかぞくは、いっしょにゐるとたのしいです。

わたしのかぞく
くまざわ こころ(2年2組)

わたしのかぞくは、おとうさんと、おかあさんとおにいちゃんです。おとうさんは、ちよとこわいです。でも、ふだんはやさしいです。バスケットをしてくれます。あと、まいにちよるおそくまでしごとをしています。おかあさんは、ちよっとだけやさしいです。あと、いつもごはんをつくつてくれてありがとう。いつもえがおです。おにいちゃんは、いっばいやさしいから、そのままいてほしいです。かぞくは、やさしいからそのままいてほしいです。